令和7年度広島大学附属東雲中学校
授業実践シート 特別支援教育　小野村 晃太

生活単元学習

自分ってこんな人 どんな人？

キーワード

- ☐ 特別支援教育（知的障害）
- ☐ 生活単元学習
- ☐ 中学校特別支援学級
- ☐ 自己理解
- ☐ 他者受容
- ☐ 進路学習
- ☐ 自己表現

単元設定の理由と単元計画

進路指導を進めていくうえで、生徒の自己理解を進めたい！

生徒の実態

・自分のこと（好きなこと、得意なこと、頑張ってきたこと、、、）がわからない
・実際の自分と自己評価がかけ離れている
・自分に自信がない　等
　→自分で自分のことを振り返るだけでは進まない…
　一方で、、、
・3年間の積み重ねで、学級5人それぞれが、どの生徒にも自分の意見を言い合える関係性になってきた

自己理解を進めるために

★他者とのやり取りを意図的に取り入れよう！

単元計画

1次	友だちクイズ	自己表現の材料集め、 他者とのかかわりの中で自己理解を進める
2次	自分を表現しよう①	「文章」の形で自分を表現する
3次	自分を表現しよう②	「発表」の形で自分を表現する 他者からのフィードバック

１次　友だちクイズ

●目的

・他者とのかかわりの中で、新しい自分を発見したり、自分が思っていた自分像を確かにしたりしながら、自己理解を進めていく

●方法「友だちクイズ」

・生徒5名で実施
・教師は生徒１名についてのクイズを出題する
・生徒はお題の答えと、そう考えた理由をプリントに書く。
・１名（クイズのお題の生徒）と回答するペア2つ（2名・2名）に分ける。
・2つのペアは、それぞれお題についての答えを話し合ってミニホワイトボードに書く。
・お題の生徒１名も同様にミニホワイトボードに答えを書く
・回答者（ペア2組）→出題された生徒、の順に答えを出し答え合わせをしていく

例）教師：「生徒Aさんの、好きな食べ物は何でしょう？」
　　生徒：プリントに答えとその理由を記入
　　→生徒A：教室の前方に座り、ミニホワイトボードに答えを書く。
　　→生徒BとC、DとE：それぞれペアでプリントをもとに話し合い答えを一つにしていく
　　答えが決まったら、ミニホワイトボードに書く。
　　→生徒BとCの答え、生徒DとEの答え、生徒Aの答えという順で答え合わせをする
　　終わったら、次の出題。「次は生徒Bさんの、、、」と入れ替わりながら進めていく。

１次　友だちクイズ

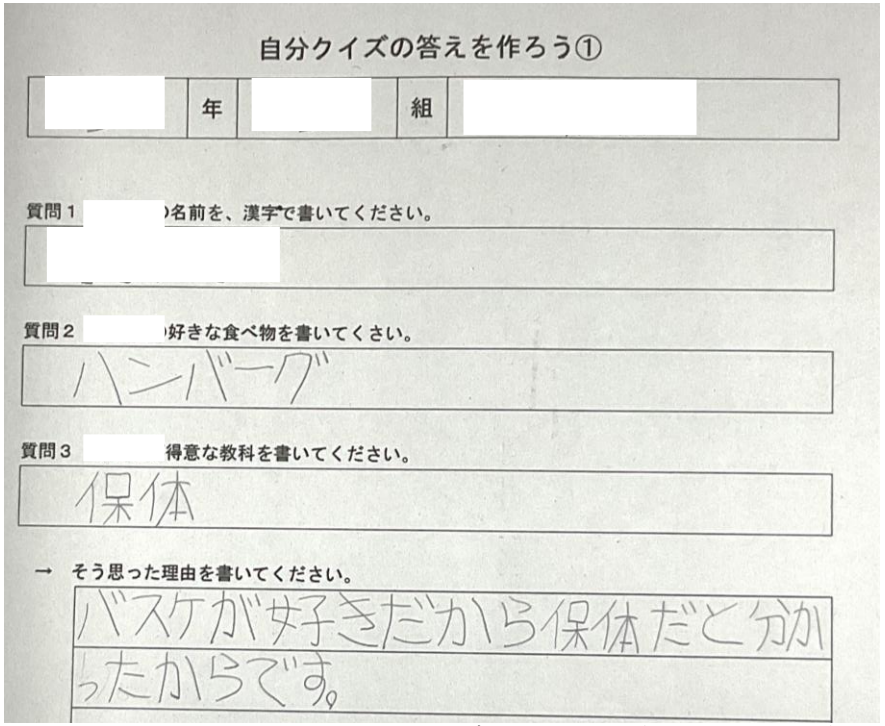
ポイント①　お題の設定

・お題は、簡単に答えることができるものから徐々に複雑なものにしていった。
これは、生徒が取り組みやすく、クイズ感覚で答えることができるようにするため、
また、他者の答えを受け入れやすくするためである。

実際のお題（上のお題から順に出してく、下に行くほど複雑）

・〇〇さんの名前を、漢字で書いてください。
・〇〇さんの好きな食べ物は？
・〇〇さんの苦手な食べ物は？
・〇〇さんが好きなスポーツは？
・〇〇さんが得意な教科は？
・〇〇さんが、中学3年生のときに
「がんばっていたこと」は？
・〇〇さんが、中学校3年間で１番
「がんばっていた」と思うことは？

・〇〇さんの苦手な教科は？
・〇〇さんの「ここは直してほしいな」と
思うところは？


自分クイズの答えを作ろう①

年　組

質問１　名前を、漢字で書いてください。

質問２　好きな食べ物を書いてください。
ハンバーグ

質問３　得意な教科を書いてください。
保体

→　そう思った理由を書いてください。
バスケが好きだから保体だと分かったからです。

生徒C→Aに対するクイズの答え（１時間目）

1次　友だちクイズ

ポイント② 正解を1つにしない支援と言葉掛け

クイズであるため、お題の生徒が書いた答えが正解になる。
しかし、お題の生徒と答えが一致しなかった回答についても、
お題の生徒に「**確かに**」「**う～ん**」の札を上げさせることで「その回答も正解に入るかも」「それは違う」という即時評価をさせた。回答するペアの答えについてその場で自分の意見をもつことで、その後の振り返りや表現する活動につなげやすくする意図があった。

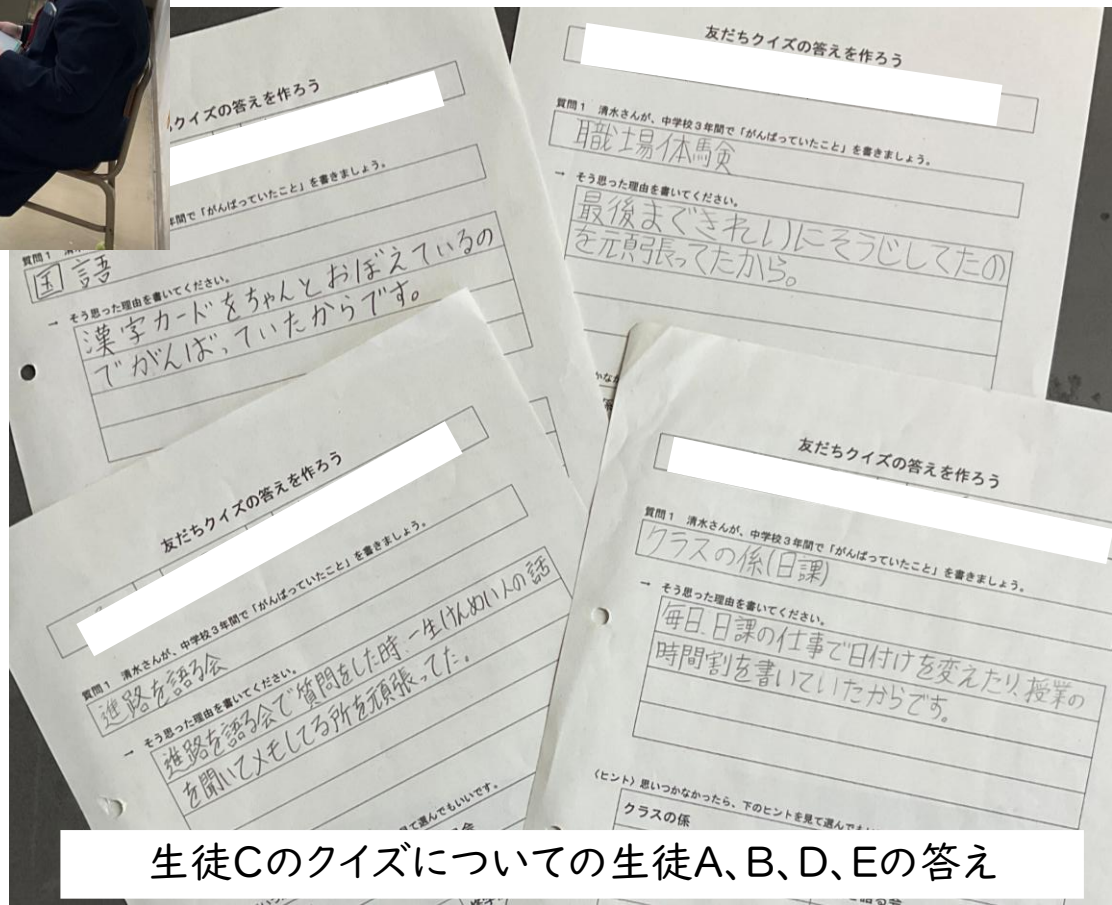
ポイント③ プリントを活用する

このクイズは、ホワイトボードとマーカーがあればできるが、あえてプリントを活用した。
理由は、以下の4点である。

- 生徒は、これまでの活動を通して自分の意見を文章にしてまとめることができ、またその活動に積極的に取り組むことができる
- ペアでの話し合いの際に、根拠と自信をもって話し合いができる
- 口頭でのやり取りは忘れてしまう。「確かに」「違う」と思ったことを視覚的に確認できる状態を作るため
- 授業の最後に、例えばAさんについてのお題に回答したプリントを、Aさんに渡してあげることで、Aさんの手元には「B、C、D、Eさんが思うAさん」のプリントが集まり、次時で自分を表現する材料にできる

１次　友だちクイズ

実際の様子



生徒Cのクイズについての生徒A、B、D、Eの答え

２次　自分を表現しよう①

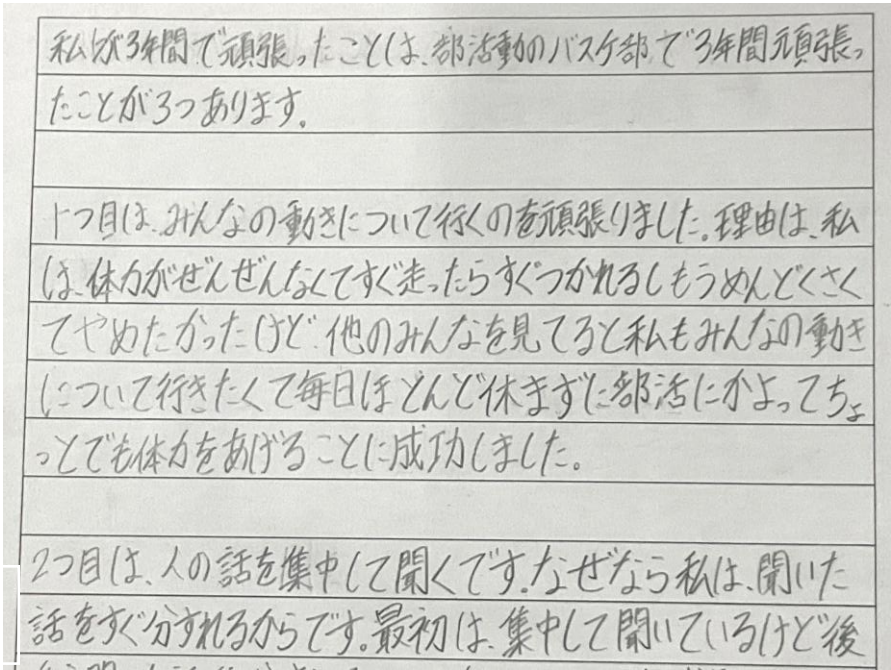
●目的
他者との関わりで得たものも含めて、今度は自分で自分を振り返り、
自己理解を確かなものにしていく。

●方法
１次で作成した、自分のことについて書いたプリントや、友だちからもらったプリントを用いて、「自分が中学校生活で頑張ってきたこと」「次の学校で頑張りたいこと」をテーマに作文を行った。

ポイント 個人の作業に専念する

あくまでも自己を理解・表現するのは本人である。2次では意図的に個人の作業に専念させ生徒個人・教師間でのやり取りに終始するよう徹底した。また、時間も比較的多く設定した。はじめからきれいな文章を書くのではなく、自分が表現したいと思うことをまず綴ることを意識させた。

生徒Aの「中学校生活で頑張ってきたこと」の一部抜粋→


私が3年間で頑張ったことは、部活動のバスケ部で3年間頑張ったことが3つあります。

1つ目は、みんなの動きについて行くのを頑張りました。理由は、私は体力がぜんぜんなくてすぐ走ったらすぐつかれるしもうめんどくさくてやめたかったけど、他のみんなを見てると私もみんなの動きについて行きたくて毎日ほとんど休まずに部活に行ってちょっとでも体力をあげることに成功しました。

2つ目は、人の話を集中して聞くです。なぜなら私は、聞いた話をすぐ忘れるからです。最初は、集中して聞いているけど後

３次　自分を表現しよう②

●目的 再度他者とのやり取りを行い、自信や改善につなげていく。
●方法 2次で作成した原稿をもとに、学級内で1人ずつ発表を行った。

ポイント 評価シートを活用する

発表を聞く際に、聞き手は評価シートを用いて発表者への評価やアドバイスを行った。
評価の観点は、広島県教育委員会「自己表現 評価の在り方」を参考にした。

例　自己を認識する力…自分の好きなこと苦手なこと、得意なこと頑張ってきたこと等
自分の人生を選択する力…自分の将来についての考え、目標
表現する力…相手に伝わりやすく表現しているか（話し方・声の大きさ・姿勢等）

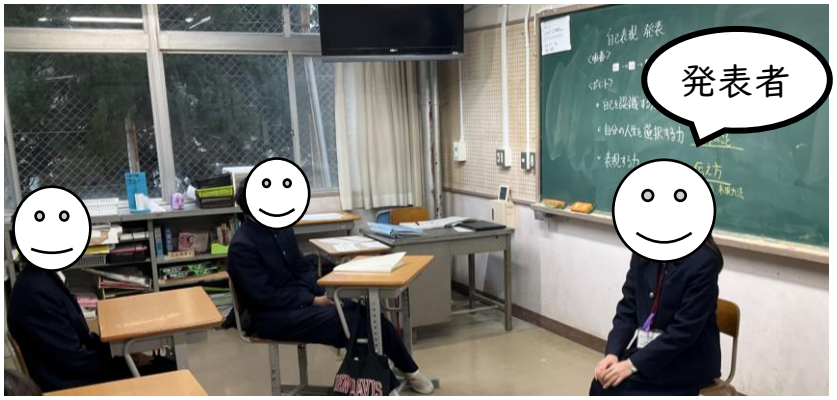
【発表者】　【評価者】

評価項目	点数		
ア　自己を認識する力	3	④	5
イ　自分の人生を選択する力	3	④	5
ウ　表現する力	3	④	5

【コメント】良かった点やアドバイス（話し方、目線、姿勢、内容などについて）
良かった点は、自分がやってきたダンスの内容をすごく覚えてる所がよかったです。あとは、声が小さいからもっと大きく声を出してください。

ア　自己を認識する力	3	④	5
イ　自分の人生を選択する力	③	4	5
ウ　表現する力	3	④	5

【コメント】良かった点やアドバイス（話し方、目線、姿勢、内容などについて）
もう少しゆっくりよめば大丈夫。あせらないで。



← 生徒Eに対する生徒A、Dのコメント

成果と課題（単元全体）

成果

・自分で振り返って終わりではなく、友だちの意見を聞く活動を一次にて取り入れることで自己理解が進むと同時に、自分を表現する内容の選択肢が増え、よりよい自己表現につながった。

・クイズの答え合わせの際に、「たしかに」「う～ん」と生徒自身に即時評価させることで、他者の意見に対してその時の思いをすぐに表現でき、その後の作文する活動につなげることができた。

・他者の意見を、「聞く」だけでなくプリントに書いて「見る」ことができる形で残したり共有したりすることで、自分について考える活動がその場かぎりのものにならず、継続して行うことのできるものとなった。

・他者への意見・評価を直接相手に渡せる活動（1次・3次）にすることで、もらった生徒は相手への「ありがとう」の気持ちを感じたり、自分が評価されてうれしい気持ちになり、自分を知る・表現することに前向きに取り組むことができた。

課題

・自分クイズの中で「苦手な教科」「直してほしいところ」等ネガティブな部分に迫る質問については、生徒同士の関係性を十分考慮したうえで実施するかどうかを考える必要がある。

・評価シートのコメント欄の内容が、表現方法に終始してしまう傾向にあった。評価シートの工夫が必要である。

番外編　単元前と単元後の取り組み

単元前：他者評価・他者受容できる環境づくり

毎日の帰りのSHRのときに**「今日友だちが頑張っていたところ」**を発表・共有する時間を作った。日々の生活の中で他者意識を育てたり、他者評価を受容できる土壌を作ることを目的に行った。

はじめは「〇〇を頑張っていました」で終わっていたが、回を追うごとに他者の具体的な姿を説明する生徒や、「自分もこうしたい」と自分と比較したり自分事にしたりするようになった。

単元後：より多様な人からの評価

通常学級の生徒といっしょに、**自己表現発表会**を行った。
単元の最後で使用した評価シートと同じものを使用し、通常学級の生徒の前で発表したり、発表を聞いたりした。

通常学級の友だちからのアドバイスに刺激を受け、自信につながっている生徒も多かった。また、通常学級の多様な「自分らしさ」に触れ「〇〇なこと、確かに自分もあるかも」と、新しい視点をもらえている生徒もいた。